

生ごみの減量化・資源化の方策（グループ討議）

項目	意見の内容	現状	班	具体的な方策	まとめ	課題
生ごみ処理機関係	生ごみ処理機の補助金制度を継続する。また、増額などにより普及を図る。	平成23年3月31日までは継続予定。 補助率 1/2 限度額 20,000円	1	補助金の上限を上げて継続する	<ul style="list-style-type: none"> ・他市町村や被補助者の状況を調査し、補助制度を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助をいつまで継続するのか。
			2	他市町村に伊那市よりも金額が多いところがある。増やした場合どれだけ普及するか調べてみて、それによっては増額もあり		
			3	補助制度は継続すべきであるが、すでに補助金交付された世帯で、実際に継続して使用しているかを確認したい。使用していない世帯が多ければ無駄な制度になるので、別に補助したほうが有効ではないか。		
	ダンボール式生ごみ処理の方法を広報し普及を図る。	方法のパンフレットを窓口を設置	1	<p>経済的だが手間がかかる ボランティアを活用して、地区へ出向いて学習会を開催 失敗した場合のフォロー メリットを付ける（花との交換など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・方法の広報と実施していただける方をお願いする。 ・実践やアドバイスをしてくれる団体をお願いする。 例 消費者の会 女団連等 	<ul style="list-style-type: none"> ・方法等のフォローするためにも実験をする必要があるのでは。実験はどこですか。 ・農地の無い人はどうするか。 ・核になるグループ（人）必要。 ・ボランティアをお願いする場合はその育成が必要。
			2	説明会をする時にその場で併せて周知する ダンボール式は置く場所がない 土がない場所では難しい 方法としてあると言う事をPRしても良い		
			3	辰野町で実施しているとのことなので、そこも含めて実際をみて、街場でも利用できるような方法で普及。電気を使ってごみ処理することに抵抗があるので、グループを募り、試験的にやってもらいたい。		

項目	意見の内容	現状	班	具体的な方策	まとめ	課題
生ごみ処理機関係	生ごみ処理機の電気代等のコストとタイプ、特徴(機種)を市民に広報する。		1	補助金を受けた世帯へのアンケート実施 (コスト、使用頻度、使用しなくなった人はその理由)	・説明会等の機会に説明する。	・広報の方法は。
			2	説明会をする時にその場で併せて周知する		
			3	おでかけ講座で教えてくれるとか、市報に掲載する。 ほしい情報は前出。 ダンボール方式、大型処理機と比較して、いい方法を選択できるようになると良い。		
	個人のごみ処理機に対する補助金について更に周知徹底する。		1	広報等	・機会がある毎に周知する。 例 市報・広報番組・文字情報・マスコミ(新聞等)・ホームページ ・イベントでチラシ等の配付。	・他の方法は無いか。
			2	説明会をする時にその場で併せて周知する 町部は特に必要があるのではないか。農村部については畑等があるため、必要がないこともあるので、町部には特にPRが必要		
			3	他の補助案 大型処理機用のバケツを補助。 ダンボール用のピートモスを補助。 駒ヶ根方式 採用してほしい。 おでかけ講座が啓発場所としては良いのでは。地区の文化祭等で積極的に講座を開設してもらえるように働きかけを。		

項目	意見の内容	現状	班	具体的な方策	まとめ	課題
啓発活動	地区へごみの説明会を開催する。市の説明会を複数回実施する。	年度末に市内31ヶ所の説明会の開催をお願いしている。	1	全員が参加できるような形態 予算や啓発につながるような内容	・説明会の開催回数を増やして、多くの方が出席できるようにする。	・説明会に参加しない人への対応。
			2	転入者もいるので年2回程度に回数を増やしたらどうか 転入者に対してごみの日を教えるのではなく、減量や取り組みについても説明をし、感心を持ってもらう 生ごみ処理機についてもその場で説明を行えば周知できる 転入者は地区説明会に参加しづらい		
			3	年一度は少ない。もっと多くするか、地区の単位を細かくする。〔区単位ではなく、町単位など〕		
	鎌倉市のように出前講座を開催する。	現在、伊那市ではお出かけ講座という事で実施している。依頼をされて毎年行っている地区もある。	1	継続、PRする	・制度の周知を行なう。 例 市報・広報番組・文字情報・マスコミ（新聞等）・ホームページ。 ・イベントでチラシ等の配付。	
			2	継続		
			3	お出かけ講座自体があまり知られていないので、まずこの制度を知ってもらうことも必要。 アンケートを実施し、すぐにフィードバックする。（安心感を与える）		

項目	意見の内容	現状	班	具体的な方策	まとめ	課題
啓発活動	地区の行事に「ごみ分別クイズ」を行なって、根気良く、啓発活動を続ける。	希望のある地区にはサンプルとクイズを随時貸出ししている。	1	継続、PRする	・引続きPRする。	
			2	ごみの分別ができていない地区、できていない地区の色分けができていれば分かりやすい		
			3			
	減量化・資源化のアイデア等の方法を示す。(広報する)		1	紙しかないが量が多い ホームページ、イベント等 市役所庁舎ロビーでの展示 減量化した人へのプラス(エコポイント等)	<ul style="list-style-type: none"> ・方策を示した生ごみ分別パンフレットを作る。 処理方法もいろいろあることを示す。 例：家庭内、ダンボール、大型等。 また、引き取りも視野に入れて、分別をしてもらう。 Ex：飼料として使用したり、工芸品として使いたい人もいる。それらのニーズにこたえるように分別する。 	・広報の方法は
			2	説明会をする時にその場で併せて周知する		
			3	<ul style="list-style-type: none"> 方策を示した生ごみ分別パンフレットを作る。 処理方法もいろいろあることを示す。 家庭内、ダンボール、大型等。 また、引き取りも視野に入れて、分別をしてもらう。 Ex：飼料として使用したり、工芸品として使いたい人もいる。それらのニーズにこたえるように分別する。 		

項目	意見の内容	現状	班	具体的な方策	まとめ	課題
啓発活動	年齢・世代(若年層や年配者)に関わらず、再資源化の方法等を周知する。	・少学校4年生へはエコツアーや副読本を提供している。	1	子供(学校)に対して行えば、親へ話をする市の施設を利用する団体等に、年1回必ずごみについての話を聞くことを義務付ける	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、企業等を対象に説明会等を行なう。 ・スーパーでチラシを配付。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業は全員が市民とは限らない。市町村によって分別は違う。 ・広報の方法は。
			2	説明会をする時にその場で併せて周知する啓発をいかにするかに懸かっている。スーパーでチラシを配ってもらうのもひとつ		
			3	地域では難しい。学校・企業との連携が必須。行政が学校・企業へ出かけて方策を説明し、具体的に指導する。		
	若年層は生ごみの再資源化に対して意識が希薄であるので、その意識付けをする。	・少学校4年生へはエコツアーや副読本を提供している。	1	段ボール式生ごみ堆肥化をPR前項と同じ	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、企業等を対象に説明会等を行なう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業は全員が市民とは限らない。 ・若年層を集めるにはどうしたら良いか。
			2	20代、30代に対するPRが必要。一人暮らしをし始めの世代は何でも一緒に出してしまう場合がある		
			3	前出		

項目	意見の内容	現状	班	具体的な方策	まとめ	課題
啓発活動	市民の意見、委員会の意見で上がった、活用可能な方法や募集した市民アイデアを啓発活動に利用する。		1	ボランティア組織の活用	・ボランティア組織の募集及び活用	
			2	環境に関心のあるグループの一覧を載せることにより市民活動が根付くのではないかと 市民活動への補助制度		
			3			
	分別の原点に戻り、生ごみ版を作るべき。(方策を示した)		1	方策が決まらなると作成できない	・今後作成するパンフレットに盛り込む	
			2	減量に関することが『ごみとのつきあい方』の中の前にもあった方がいいのではないかと		
			3	前出		

項目	意見の内容	現状	班	具体的な方策	まとめ	課題
啓発活動	市民に対して、厳しくするのはいかなものか。市報等の広報の量が多過ぎて、目が届かない。		1	ルールは守るべきである 内容を精査	・機会あるごとに説明会やお出かけ講座で呼び掛けを行なう。	・広報が目が届く方法をどうすれば良いか。
			2	出す側の責任もある		
			3	紙媒体の広報よりも、講座のほうが効果的か。		
	アパート等は大家さんから啓発。	年1回、アパートの管理会社等へは、説明会を開催している。	1	説明会を継続	・現在行なっている説明会を継続し、引続き協力をお願いする。	・罰則適用は関係部署との協議が必要。(検察庁等)
			2	アパートや住民登録をしていない住人については大家などに説明を徹底してもらう アパート管理会社に対する説明も必要。意識付けが大事		
			3	行政がもっと強く指導してよい。 罰則適用も視野に。それくらいひどい。 分別方法だけでなく、資源化減量化について詳しく説明する。		

項目	意見の内容	現状	班	具体的な方策	まとめ	課題
啓発活動	市民に不法投棄の現状を見ていただく事も一案。		1			
			2	現場を見てもらうことが一番PRになる 中学生など小さい頃から見てもらうことも必要		
			3			
	もったいない意識が薄れている。		1			
			2	生ごみは資源だということをどれだけPRするかが大事 生ごみは資源であることのPR 『生ごみ』のネーミングを考える。ネーミングの募集		
			3			

項目	意見の内容	現状	班	具体的な方策	まとめ	課題
生活改善や地域での活動	地域での生活改善が必要。		1		・持参及び食品残さを出さない啓発活動をする。	
			2	マイはし、マイカップの持参 必要な分だけ用意し、総て飲食し残さない 飲みつくし、食べつくし運動		
			3			
	料理で残らない量をつくる。 必要最小限の買い物と食事。 大量生産、大量消費を改める。		1		・食品残さを出さない啓発活動をする。	
			2	食べきり、食べつくし 食べれないものは出さない(装飾はしない)		
			3	残食を違うメニューへ変えるなどのレシピ募集、公開。 買うときの工夫点、小口販売などを広報で啓発。 飲食店組合と連携して、外食の残食について減量化をはかる。(持ち帰りや、量の調整) 提供する側の意識改革のための勉強会。		

項目	意見の内容	現状	班	具体的な方策	まとめ	課題
生活改善や地域での活動	生ごみの水分減量のため、水切りバケツの採用（貸与）して減量を図る。		1		・水分を絞る方法を確立し、啓発活動をする。	
			2	流し台の排水口にストッキング 水分しぼり機の作成 収集するシステムができれば考える		
			3			
	くだものの皮などは天日に当て水分を取り、目方を減らす。（臭いの出るものは除く）		1		・工夫やアイデアをパンフレットに掲載し、啓発活動を行なう。	
			2	生ごみパンフレットを作成し、具体的なアイデアを掲載する		
			3	工夫の啓発		

項目	意見の内容	現状	班	具体的な方策	まとめ	課題
生活改善や地域での活動	残飯は自家処理する。		1		・食品残さを出さない啓発活動をする。	
			2	出さないようする		
			3	自分の食べられる量を知る。		
	何人かグループを作り工夫の輪を広げる（ほかし利用等）		1		・ボランティア組織の募集及び活用	
			2	今あるグループへアイデア募集する		
			3	前出		

項目	意見の内容	現状	班	具体的な方策	まとめ	課題
生活改善や地域での活動	地区の衛生自治会等が中心になり、区を上げて協力してもらう		1		・地区へ使用の啓発活動	
			2	マイはし、マイカップ、飲みつくし、食べつくしを地区へも依頼する 洗うのが面倒くさいということで使い捨てのものは使わない 生活改善 役員会などで説明		
			3	さらに強化体制。		
	包装は簡易包装。		1		・意識付けのための啓発活動及び事業者の協力	
			2	発生抑制 店頭でのはかり売り		
			3	個人の意識改革も必要。 製造企業の責任も大きい。自治体からもその問題を国等に発信。		

項目	意見の内容	現状	班	具体的な方策	まとめ	課題
生活改善や地域での活動	土に埋めて戻す。(鳥、猫等に掘られないように分別して)		1		・農業としての循環を啓発する。	
			2	出来る人から深く掘り、果物の皮を上に乗せる意識の問題		
			3			

項目	意見の内容	現状	班	具体的な方策	まとめ	課題
その他	エコポイント制度を導入しては。(い~なちゃんカードを利用して)		1		・どんな方法などの検討	
			2	前向きに検討		
			3	どこかに経済的負担が生じる。が、前向きに検討すべき。		
	全世帯にアンケートを行い、100%の回収を目指す。行政に期待したいことを盛込めば。		1		・処理機の補助者にアンケート実施	
			2	処理機購入補助金利用者のみでもアンケートを実施 利用者の意見を聞く機会をつくる		
			3	地区説明会で回収できるように配布する。生ごみ処理機などの実態調査もかねて。		

項目	意見の内容	現状	班	具体的な方策	まとめ	課題
その他	生ごみの堆肥化施設に取り組むべき。		1		<ul style="list-style-type: none"> ・モデル地区事業を市街地を実施してもらう。また、堆肥化施設などは長期的に研究する。段階的に1台導入しては。 	
			2	大萱で行ったものを市街地でやってもらうのが一番 町部に大型処理機を作る 一地区一処理機		
			3	駒ヶ根方式を参考に前向きに早期対応するべき。		
	機械投資はフォローが大変。		1		<ul style="list-style-type: none"> ・処理機等の管理等を業者委託にする 	
			2	職員が付いたほうが進むのではないかと 駒ヶ根市は維持管理を建設業者がやっている。伊那市は清掃業者へお願いしたらどうか 機械の納入業者へ管理もすべてお願いする方法であれば、普及が進むのではないかと		
			3	駒ヶ根方式であれば、投資しても良いのでは。		

項目	意見の内容	現状	班	具体的な方策	まとめ	課題	
その他	生ごみを堆肥にする。できるものは家畜飼料としては。(豚の餌)		1		・受入先を検討する		
			2	業者に相談			
			3	前出。			
	市がバケツを貸し出し、生ごみをそれで農家へ持ち込むと花の苗と交換してくれる。		1		・生ごみの受入先を探すことが先決。 まず、行政が音頭取りをして団体を探す。 例：「小沢花の会」など自主的に活動している団体に呼びかける。 但し行政が間に入らないと動き出さない団体だと意味がない。 また、堆肥化してからではないと受け入れないかも。 ・良いことはまねをしてもやる方が良い。先進地例を行政が発信し、 情報提供をする。やる気のある地域が出てくるのを待つ。 ・ゴミを出すことに、楽しみを付加させる。モチベーションがあがるよう。	・受入先を検討する	
			2	検討			
			3				

項目	意見の内容	現状	班	具体的な方策	まとめ	課題
その他	市場でせりを行なう時、傷で除いたもの売る努力をする。(箱単位処分を改める)	どこに相談して良いかわからない。行政で相談窓口を設けることが必要。JAならJAでも良い。	1		<p>・地産地消の推進</p>	<p>・市役所の駐車場の提供は可能か</p>
			2	<p>買う人の意識改革 生産者直売コーナーの充実 業者にも働きかける 市場では難しい</p>		
			3	<p>地産地消の推進 生産者から消費者へ目に見えて商品提供出来るルートを開拓する。 ・「軽トラ市」 所定の場所で、所定の時間に生産者が直接売る。ヨーロッパの市場のように。市役所の駐車場で土日に行く。その場所で分別した生ごみか、堆肥化した生ごみを生産者に引き取ってもらう。ただ、一時処理していても多くは引き受けきれないと思うが。 地域の直売所をもっと利用するのも良い。 小売業者への指導 傷物商品は今まで廃棄していたが、ばら売りにする。 消費者も、生産者がわかり、安価ならば傷物でも購入する。企業の意識改革をする。</p>		
	方法によりゴミの分別をしていく。	再生化の結果がわからない。	1		<p>・リサイクル先や方法等を広報する。</p>	
			2	検討		
			3	<p>再生化の結果、何になるのかが一般に浸透していない。 ステーションに掲示してみる。</p>		

項目	意見の内容	現状	班	具体的な方策	まとめ	課題
その他	チケットが余る。市民に恩恵があると良い。	上伊那広域連合で、小学校の児童会を対象に回収制度を行なう予定。	1		・何らかの方法を検討	・伊那市のみでの実施は、チケットが越境する可能性もある
			2	他の方法もあるのではないか		
			3	個々の努力が目に見えると良い。学校への還元であれば、「 <input type="text"/> を購入しました」とか「 <input type="text"/> 会に使用しました」など、報告をする。学校に縁遠い環境の人には、やはりポイント還元か？「減らしました」「だから」がほしい。具体的にはどういう形が良いのかわからないが、子どもだけでなく恩恵を。		